

那須与一伝承館通信〈第13回〉

○温泉社内 宗隆公御矢根図

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、温泉社内宗隆公御矢根図を紹介いたします。

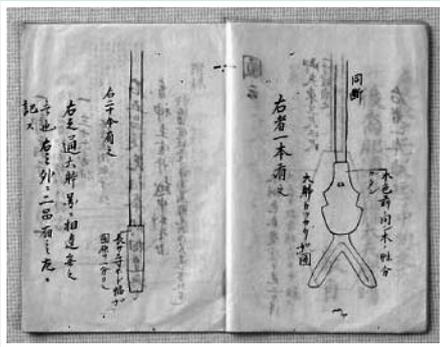
本品は、温泉社（那須町那須温泉神社）所蔵の宗隆奉納と伝えられる矢、恩田社（那珂川町御霊神社）所蔵の香炉の銘文などを那須資明（芝山・一七六〇—一八三三）が家臣を現地に派遣して写し取らせましたものです。

この資料は縦二八・二センチメートル、横二〇・四センチメートルの縦帳（和紙を半分折り、こよりで綴った帳面）に宝物の形を写し取って、それぞれ寸法や材質などを朱書で記したものです。

これによると、寛政三年（一七九一）に家臣の竹尾兵治を温泉社に遣わし、①宗隆が奉納した矢根（鏃）三本、②これを収めるために江戸初期の那須家当主であった那須資晴（一五五七—一六一〇）が慶長十二年（一六〇七）に寄進した矢箱、③京都より拝領した扇子、④「近衛殿御筆」による三十六歌仙（藤原公任（九六六—一〇四一）の「三十六人撰」に基づく三十六人のすぐれた歌人）の書

などを調査させました。この内、本書には矢根と矢箱、香炉の図が描かれております。資明の主導した宝物調査は、資料の状態や材質などを克明に記録しており、非常に実証的な手法を採っていたことがわかります。これは、現在の学術調査の水準に照らしてみても、全く遜色のない、高いレベルでの資料調査であったと位置付けることができます。

現在、この資料は那須与一伝承館において展示されています。ぜひご覧ください。



ゆげんしゃない むねたかこうおん や ね ず
温泉社内 宗隆公御矢根図（那須家所蔵）

■問い合わせ

那須与一伝承館

TEL (20) 0220

彫刻

市内で作られた作品とその作者

周遊 27

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、ふれあいの丘のシャトー・エスポワールのすぐ南側の芝生広場に置かれている2点1組の彫刻です。

まず地面に埋め込まれた四角い石が目につきます。程よく磨かれたその表面は、四角の中心に向かって緩やかに傾斜し、その中心には一人一人が入れるほどの丸い穴が開けられています。



穴の底は地面の中にあって見ることができません。地中深く続く底なし世界への入口のようです。

Concentration to the Earth Core
(地球の核心に向かう) 横山 大観 2000年

その穴から取り出された円柱状の石が、まるで丸太のようにかたわらに横たわっています。

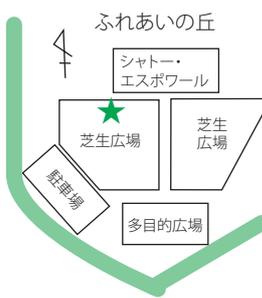
作者は、Concentration to the Earth Core (地球の核心に向かう) をテーマとして、地球と一体化したような彫刻制作に取り組んでいるといます。この作品はその一つです。

作者は、1974年富山県生まれの横山大観氏。東京造形大学彫刻科卒業後、1999年に東京藝術大学大学院を修了し、その翌年に本市の彫刻シンポジウムに参加。この間中国、沖縄、韓国での彫刻シンポジウムにも参加。近年は各種彫刻コンクールでの受賞歴もあります。作者の名前は富士山を描いた絵画などで知られる近代日本画壇の巨匠横山大観と同姓同名ですが、彼の仕事を気に入った父親が名付けてくれたといいます。



横山 大観 氏

設置場所案内図(★印)



■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718